

多文化共生について

田中 章平

今回の姉妹都市訪問青少年生活体験団派遣を通じて、多文化共生を学ぶことが出来ました。

生活体験団を引率することが決定し、いざニュージーランドの文化について調べてみると、「多文化国家」とありました。ですが、「多文化国家」って何？からのスタートでした。

言葉の意味は「ある国家の滞在人口において、最多民族以外の多民族合計が5%以上を占める国」ということでした。5%以上と言われてもイメージがつきにくいですが、ニュージーランドの総人口がだいたい520万人いて、マオリ族以外の人種が85%を占めている計算になります。

世界の歴史を振り返ってみても、民族同士の争いは尽きることはなく、現在も世界のどこかで紛争が起きています。それにも関わらず、多くの民族が暮らす多文化国家であるニュージーランドではそんな話は聞いたことがありません。

実際に生活する中で、日本では経験したことがない出来事が多くありました。例えば、散歩をしている時に「Hi!」と当然のように声を掛けられることや学校訪問中にも現地の生徒から声を掛けてくることがありました。

日本だと、他者に声を掛けることに抵抗や恥ずかしさがあることが多いですが、ニュージーランドではそんなことは全くなく、自然に声を掛ける文化を強く感じました。

声を掛けることでコミュニケーションのきっかけを作り、自分たちの価値観を押し付けず、お互いに尊重しながら、お互いの生活を認め合っている姿を目の当たりにしました。

私のホストファミリーはイギリスから移住していましたが、理由を聞くと、「ニュージーランドは色んな民族がいて、色んな考えを学ぶことができるから良い」と話していました。

在ニュージーランド領事事務所の方がお話ししてくださった中に、「異国の地に住むだけでは受け入れてもらえない。同じ言語を話し、溶け込もうとする姿勢が伝われば受け入れてもらえる」という趣旨の話がありました。

また、滞在中にイギリス、エジプト、スリランカ、中国、チェコ、フィジー、日本の方と共に過ごすことがありました。

どの場面においても、生活するうえで当たり前のこととしてお互いの生活を認め合う姿を見て、「多文化共生」について学ぶことが出来ました。